



20周年記念誌、協力してお届けしたい！

長らくお待たせしました！ 20周年記念誌がお配りするばかりになっています。ただ、郵送料が印刷費の1.5倍もかかります（なんてお高いんでしょう！！）。3月14日のクラブ代表者会、28日の理事会でクラブ代表者、理事の皆さんに可能な限り持って行っていただく予定ですが、1冊が360gもあり今までの総会資料等のようにたくさんの方の分を持って行っていただくのは無理な状況です。そこで、今回は皆さんに取りに来て頂く方法を取りたいと思います。下記の7日間、毎日10時から午後3時まで、同窓会室（狭山元気プラザ2階）にてお渡しします。お近くの会員をご存知でしたら、是非その方の分もお持ちください。記念誌配布に皆さんの力をお貸しください。



記念式典で使用予定だったくす玉の垂れ幕を持つ黒川さんと村田さん

お渡し日 → 3月15日(火)～18日(金) 10:00～15:00
3月22日(火)～24日(木) 10:00～15:00

同窓会室のご案内

狭山元気プラザ2階の一番西側の部屋です。

北側入口を入ると右に階段、左にエレベーターがあります。2階に上がっていただいたら右（富士山のある方）に進み、一番端の部屋です。階段は玄関入口、中庭入口の近くにもありますのでご利用ください。



岳先生の歴史講座 4月に開催



こちらもお待たせしました。さやま市民大学同窓会主催の歴史小説家が語る3回シリーズ講座『戦国 SENGOKU 秘話と謎』がいよいよ4月に開催されます。前回はコロナ感染症のため延期になりましたが、今回は更に新たな内容を加えて準備中です。日程は、**4月11日(月)、19日(月)、25日(月)**の3日間、午後2時から4時までです。場所は前回と同じ市民交流センター1階コミュニティホールで、受講料は3000円（3回シリーズ）。是非予定に加えておいてください。

岳先生から皆さんへのメッセージも受け取っておりますが、紙面の都合で次の詳しい講座案内の時にご紹介します。どうぞ楽しみに！

● 不愉快な新常識 ●

わくわくしていた同窓会20周年記念式典がドタキャンになり、これがきっかけで、不満が爆発した。コロナ菌に振り回され、ビクビクしながら、長く行動を制限されることが我慢ならない。加えて、なぜか同居して定年のない婆様の指図が、鬱憤を増大している。発散しなければ、パンクしてしまう。最近巷で見聞する、どうしようもなく不愉快な新常識をやり玉に挙げ、すっきりしたい。



その1：どうにも止まらない「スマホ狂」



二宮金次郎は、焚き木を背負って歩きながら書物を読み、寸時を惜しんで勉強に励んだと言われている。しかし、「ながら読書」は自動車も電車もなく、かつ、通行人が少ない山間僻地での昔の話だ。最近のスマホへの「のめりこみ」は一体何だ！脇目も振らずにスマホに集中。危険だ！ほとんど病気ではないか。ビジネスが先行し、弊害・副作用に対する法的整備が後手になっている。スマホでは、相手の微妙な表情、言葉の抑揚、臨場感等を伝えることはできない。しっかり対面し、会話して自分の考えを伝えることができない人間が溢れてくると大変なことになる。巷のこの流れを阻止したいと考えているのは、爺だけではあるまい。

その2：断捨離・終活とは何だ

最近、巷に氾濫している「断捨離」、「終活」とは、いったい何だ。「もう、そろそろご臨終が近いですよ」と催促しているように思えるのだ。大きなお世話だ。画家・作家・音楽家・写真家などは、人の魂を揺さぶる感動を提供している。高齢者の不安を煽って、もうけている輩は、物書きではない。許せない。新聞の広告欄に、高齢者向けの不要な、不安を誘う見出しが氾濫している。



以上、最近の、巷の新常識を2つ列挙したが、まだまだある。鬱憤を発散しないと耐えられなくなったら、またいつか、「つぶやき」たい。

(評論狂狭山爺のつぶやき)

【ちょっとエッセイ】 の花子

猫好きの人を見るたびに祖母を思い出す。「豚に念仏、猫に経」と言うことわざがある。有り難い考え方も、理解できない者にとっては何の効果もないことの例えであることは承知している。だが我が家の猫には、このことわざは該当しない。祖母の日課である朝晩の読経にずっと一緒に参列するからだ。猫(雑種)の名は「花子」。9歳になる。喜寿を過ぎた祖母が生後40日目から哺乳瓶でミルクを飲ませ育てた花子は子供のころから読経の時間となると、なんと仏壇の前に座り祖母の読経が終わるまで静かに聞いている。「賢いねえ」と言って撫でる祖母。花子と祖母が目を合わせる姿は微笑ましい。花子との読経は祖母の生活の一部である。花子が先に座っていることもありビックリすることも屢々(しばしば)ある。天国の祖父も、そんな光景を見て喜んでいるであろう。なによりも祖母の元気の源になっている花子である。

(中嶋亨さん)